

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法		講義	
科 目 名	運動学 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30	(2) 時間(単位)	
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	前期	教室名	普通教室		
担 当 教 員	山本 真吾	実務経験と その関連資格	(理学療法士)臨床現場にて運動器疾患を持つ対象者を担当した実務経験有り。					
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>運動学は人間の運動を科学的に研究する学問であり、人の運動機能障害や動作障害を治療対象とする理学療法士にとって必要不可欠な知識である。正常な人間の運動を理解するために① 運動に関する単位や運動の法則、てこの原理などを理解した上で身体運動を力学的な視点で捉えられるように学習する。② 人間の運動を可能にする骨や関節、靭帯、筋といった基本的な運動器の構造と働きを学習する。 ③ 上肢帯の運動を理解するために、関連する骨や関節の解剖を確認し関節運動と筋の相互作用について学習する。</p>								
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>定期試験(90%) レポート(10%)</p>								
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>弓岡 光徳他『エッセンシャル・キネシオロジー 原著第3版』南江堂 中村隆一他『基礎運動学(第6版補訂)』医歯薬出版 配布資料</p>								
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>教科書を中心とした授業の予習・復習。</p>								
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>運動学を理解するには筋骨格系解剖学、神経筋生理学の知識が必要になってくるので解剖学、生理学の知識を確認しながら授業に取り組みましょう。</p>								
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容			
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	運動学に関する用語と骨の運動学を習得することができる。	配布資料	事前学習 医学用語について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)			
		各コマにおける授業予定	運動学に関する基本的な医学用語について学ぶ。					
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	骨・軟骨・靭帯の機能と構造を理解する事ができる。	配布資料 骨模型	事前学習 骨・軟骨・靭帯の機能と構造について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)			
		各コマにおける授業予定	骨・軟骨・靭帯の機能と構造について骨模型なども通して学ぶ。					
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の機能と構造を理解する事ができる。	配布資料	事前学習 関節の機能と構造について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)			
		各コマにおける授業予定	関節の機能と構造について学ぶ。					
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の機能と構造を理解する事ができる。	配布資料	事前学習 筋の機能と構造について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント、小テストの勉強(30分)			
		各コマにおける授業予定	筋の機能と構造について学ぶ。					
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩甲帯の骨と関節構造について説明する事ができる。	配布資料 骨模型	事前学習 肩甲帯の骨と関節構造について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)			
		各コマにおける授業予定	肩甲帯の運動学について、分担骨を使い骨と関節構造について学ぶ。					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩甲骨の運動学について説明する事ができる。	配布資料 骨模型	事前学習 肩甲骨の運動学について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)
		各コマにおける授業予定	医療の現場に必要な基本的な英語表現を使いこなすことができる。		
第7回	講義形式	各コマにおける授業予定	肩甲骨の運動学について説明する事ができる。	配布資料 骨模型	事前学習 肩甲骨の運動学について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)
		各コマにおける授業予定	肩甲骨の運動学について筋と関節の相互作用について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩甲骨の運動学について説明する事ができる。	配布資料 骨模型	事前学習 肩甲骨の運動学について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント、小テストの勉強(30分)
		各コマにおける授業予定	肩甲骨の運動学について筋と関節の相互作用について学ぶ。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘・前腕の骨と関節構造について説明する事ができる。	配布資料 骨模型	事前学習 肘・前腕の骨と関節構造について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)
		各コマにおける授業予定	肘・前腕の運動学について骨と関節構造について学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘・前腕の運動学について説明することができる。	配布資料 骨模型	事前学習 肘・前腕の運動学について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)
		各コマにおける授業予定	肘・前腕の運動学について筋と関節の相互作用について学ぶ。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘・前腕の運動学について説明することができる。	配布資料 骨模型	事前学習 肘・前腕の運動学について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント、小テストの勉強(30分)
		各コマにおける授業予定	肘・前腕の運動学について筋と関節の相互作用について学ぶ。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節の骨と関節構造について説明する事ができる。	配布資料 骨模型	事前学習 手関節の骨と関節構造について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)
		各コマにおける授業予定	手関節の運動学について骨と関節構造について学ぶ。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	手関節の運動学について説明することができる。	配布資料 骨模型	事前学習 手関節の運動学について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント、小テストの勉強(30分)
		各コマにおける授業予定	手関節の運動学について筋と関節の相互作用について学ぶ。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	手指の骨と関節構造について説明する事ができる。	配布資料 骨模型	事前学習 手指の骨と関節構造について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)
		各コマにおける授業予定	手指の運動学について骨と関節構造について学ぶ。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	手指の運動学について説明することができる。	配布資料 骨模型	事前学習 手指の運動学について教科書を読む(30分) 事後学習 復習プリント(30分)
		各コマにおける授業予定	手指の運動学について筋と関節の相互作用について学ぶ。		